

内水面支場
News !桜川でハクレンの
産卵を初めて確認

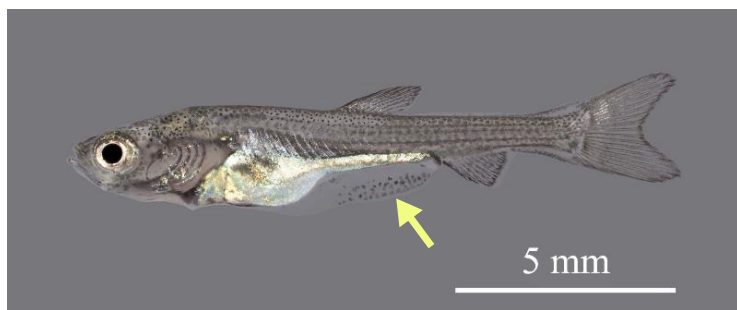
令和2年6月29日 増水した桜川にて



写真1 ハクレンの産卵行動



写真2 採集されたハクレンの卵



◁ 写真3 孵化後1か月の稚魚

矢印は本種の仔稚魚の特徴である腹部の膜部分の黑色胞を示す。

6月29日に、霞ヶ浦に流れ込む桜川にて調査を行ったところ、ハクレンの産卵を確認しました。本種は降雨により増水した河川に遡上し、水面付近でばらまくように産卵します(写真1)。卵は吸水して直径5mm程に膨らみ(写真2)、川に流されながら発生・孵化します。採集された卵を持ち帰り、実験室で孵化させて育てたところ、腹部の膜部分に黑色胞(黒い色素)が見られたため、ハクレンであることが確認できました(写真3)。

ハクレンは中国原産の外来種で、日本では利根川本流で産卵することが知られていますが、桜川をはじめとする霞ヶ浦・北浦の流入河川での産卵の確認は今回が初めてとなります。霞ヶ浦では平成29年夏季に、トロール漁でハクレンの稚魚が多く混獲されて問題となりました。これらは桜川で産まれた個体の可能性があることから、内水面支場では引き続き桜川および霞ヶ浦でのハクレンの動向を注視していきます。

(内水面資源部 外山)